動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話 （鉄電） 千葉 2935・2939番
（公） 043（222）7207番
97.4.8 No. 4577

分割・民営化十周年弾劾！ 動労総連合総決起集会開催

四月六日、一七時三〇分より、千葉市民会館において、「分割・民営化一〇周年弾劾ー動労総連合総決起集会」が開催され、動労千葉、動労水戸、動労連帯高崎、動労西日本の仲間たちや支援の労働者など一九〇名が集まり、「ＪＲ体制打倒」の新たな一〇年に向けて全国で奮闘することを誓いあった。

総決起集会は、国分副委員長（水戸）の開会あいさつで始められ、まず、主催者を代表して中野委員長からあいさつが行なわれた（要旨別掲）。

次に、動労総連合結成時から一〇年間にわたって執行委員長を務め、昨年退任された水野前委員長（現勝浦市議）から「一〇年前、労働運動の原点を守り労働者として生きる道を選び、そして、動労総連合結成一〇周年を迎えた。いよいよわれわれが切り開いた地平に踏まえて勇躍決起する時代が到来した」と総連合の闘いの正義性が改めて語られた。

決意表明する各代表、左から辻川（水戸）、高石（千葉）金沢・小川・大江（西日本）、漆原（連帯高崎）の各氏

中野委員長あいさつ（要旨）

三月三一日で分割・民営化から満一〇年を経過したが、なぜわれわれや清算事業団の仲間たちが頑強に闘い続けられてきたのか。ひとつには、分割・民営化という悪らつ極まりない不正義の攻撃を認めることはできないし、同時に分割・民営化は、単に人を減らすということだけではなく、国鉄労働者の寄って立つバックボーンまでへし折ろうという攻撃であったから、何がなんでもこれに勝ちたいということがあった。もうひとつは、動労革マルを先兵にして分割・民営化という悪業を行い、それが今も行なわれていることに対して、断じて認めることはできないし、これが労働者の進むべき道であるという立場に立ってきたからだ。

ＪＲ総連革マルは、会社を使って傘下労働者を押さえ付けてきたが、いたるところでボロが出てきた。分割・民営化後の暗い雰囲気から比べると、今は何かやれば動くという状況に入ってきているし、動労総連合で頑張りぬいてきた苦しみがむくわれる時が来たということだ。いまこそ多数派になる絶好の時期がきたということだ。

もうひとつは、安保・沖縄闘争だ。四月三日に特措法の改悪案が国会に上程され、二週間で強行突破しようとしている。狙いは、沖縄の闘いを潰すことにある。今は「安保のため」と言っているが、他の言葉に置き換えれば何でもできるということであり、まさに戦時立法だ。反戦・平和の闘いを労働組合の重要な柱とするならば、特措法粉砕へ四月に全力決起することを第三次安保・沖縄闘争の柱にしなければならない。

分割・民営化一〇周年を期して国鉄闘争の重要性と方向性を明確にするとともに、この闘いを前進させるためにも特措法粉砕闘争をやりぬき、五月一四～一五の沖縄現地闘争につなげよう。

特措法阻止へ 沖縄から訴え

特別アピールとして、全国沖縄青年委員会・新城委員長から、国会で審議されている沖縄軍用地特別措置法の不当性と成立阻止に向けて四月の国会包囲闘争にともに立ち上がることが訴えられた。

そして、総決起集会のメインとして文芸評論家の中島誠氏より『時代の転換点と国鉄闘争』と題して六〇分にわたって講演が行なわれた。講演の中で中島氏は、日本の労働運動が九七年春で様変わりしたこと、しかし、時代は抵抗から反逆の時代に入ったこと、沖縄の米軍基地＝ベースとは永久化を意味し、沖縄の人たちに残された闘いは実力闘争しかないこと、などが切々と語られた。（なお、講演の詳報は後日掲載する予定です）

総連合各組合からの決意表明

布施書記長から、①国鉄闘争は、この一〇年間で取られたものを取り返す時期がきた、②特措法のようなルール変更は、人間社会が成り立たなくなる、労働運動の新たな潮流をつくりあげるためにも国鉄闘争とと安保・沖縄闘争を闘おう、と基調報告が行なわれた。

そして、総決起集会の最後に、動労総連合傘下の各組合から決意表明が行なわれた。

まず、動労千葉からは高石執行委員が「この一年、全てをかけて清算事業団闘争に勝利しなければならない。この闘いが全国で苦闘しているのあらゆる労働者に勇気を与える。一〇年間でつくりあげた闘う団結で清算事業団闘争に勝利しよう」と力強く訴えた。動労水戸の辻川委員長は「橋本が国鉄闘争を潰すためにあらゆる手段を使うことは、特措法改悪による沖縄闘争圧殺攻撃を見れば明らかだ。一〇年に及ぶ積年の恨み・怒りを動労水戸や総連合の仲間たちが如何にして返していくのかということを明らかにして闘っていきたい。水戸の地から反逆の闘いに立ち上がる」と熱烈な決意が語られた。

動労西日本からは三名が登壇し、代表して小川書記長が「二名のストで動労西日本は元気になった。動労総連合で一〇年闘ってきて労働運動の大高揚期にいよいよ入ったと確信できる。さらにこの道を進みたい」と闘う中に勝利があることを自信をもって訴えた。そして、決意表明の最後に、動労連帯高崎の漆原副委員長から「三・一九ストで国労と共同の突入集会を行なった。ＪＲ東労組の若い組合員から『うちの組合に春闘はあるのか』という意見が出ている。ここに動労連帯高崎の反転攻勢のきっかけがあると確信している」とＪＲ総連解体・組織拡大へ向けた決意を明らかにした。

総決起集会の最後に、石井教宣部長（水戸）による組合歌合唱、中野委員長の音頭で団結ガンバロー三唱を行い、新たな一〇年へ向けた闘いへの総決起を誓った。

新たな10万人合理化粉砕!! 労働運動の新たな潮流めざし全国へはばたこう!!